

< 前回 > ( 宗教現象モデル・広義の宗教 信仰・究極的関心 )

宗教現象学：宗教現象の記述（エポケー） 類型・基本要素 基本構造

典型例（純粹化された理想形態） 分析 概念化

信仰の現象学

「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」(マルコ 12:30)

究極的関心(ultimate concern)

信仰は、人間の人格全体において行われる究極的関心であり、信仰者の自己同一性を規定しているものである。

自己同一性と信仰、役割（だれ）と目的（何のため）

## 5 聖なるものの現象学

### 5 - 1 : 聖なるものの現象学

1. 「S - M - O」における「O」(信仰の対象) 聖なるもの(das Heilige)
2. 信仰対象の多様性 宗教現象学(記述と類型化 基本要素・構造)
3. ファン・デル・レーウの『宗教現象学入門』(東京大学出版会)
  - 1:原始的な力
  - 2:思弁的な力
  - 3:力ある物(呪物崇拜) (デュナミズム)
  - 4:力ある世界(聖なる木、石、水、火)
  - 5:天と天体
  - 6:聖なる動物
  - 7:意志と形態(アニミズム)
  - 8:母と父
  - 9:救世主 (汎神論)
  - 10:先祖と王
  - 11:霊鬼と天使
  - 12 形態と名称 (有神論) 15:有神論と汎神論
  - 13:最高存在
  - 14:多神教
4. 聖書の神・キリスト教の神
 

日常的・俗的なものから際立った力  
意志的(自由の主体)  
形態的  
名称(名)を有する

人格神（有神論）

究極的関心を可能にするほどの力で人間に関わり、コミュニケーション可能な意志的な存在者（意志・形態・名）

「神 - 人間」においてイニシアティブをもって振る舞う存在者

5. 人格とは？ 現代における人格の危機：自己同一性と物語  
物語において自らが何者かを自覚し他者へ表現する存在  
自分史（自己を問い・語る存在者としての人格）
6. 人間の人格性と信仰対象の人格性との相関

## 5 - 2 : 聖なるもの・ヌミノーゼの経馬

7. オットー「聖なるもの(das Heilige)」
8. 魅する秘義(mysterium fascinans) - 戦慄すべき秘義(mysterium tremendum)  
光・平和・祝福・恩恵                      闇・破壊(災い)・呪い・罰(怒り)
9. 「光を造り、闇を創造し、平和をもたらし、災いを創造する者。わたしは主、これらのことをするものである」(イザヤ 45.7)              cf:詩 90、サムエル記上 2.6
10. 「尋常ならずすぐれたる徳のありて、可畏き者を迦微とは云なり」(本居宣長)

## 5 - 3 : ヒエロファニーとコスモス

11. ヒエロファニー = 聖なるものの顕現（経験可能な領域への具象的現れ）
12. 遠ざかる最高神（隔絶神）              聖なるものの忘却と死
13. 「この三柱も神は、みな独神と成りまして、身を隠したひき」(『古事記』冒頭)
14. 三層構造世界観・世界軸、カオスからコスモスへ（創世神話）
15. 聖と俗との緊張
16. ヒエロファニーとコスモス（秩序ある居住可能な世界）の生成：  
秩序の三重構造：国土 - 都市 - 建物
17. 教会建築のコスモロジー
18. 都市のコスモロジー、都の条件は何か  
平城京、平安京、江戸

<文献>

- 1: オットー 『聖なるもの』(岩波文庫)
- 2: 金子晴勇 『聖なるものの現象学 宗教現象学入門』(世界思想社)
- 3: 宮家 準 『宗教民俗学への招待』(丸善ライブラリー)  
『生活のなかの宗教』(NHKブックス)
- 4: 中村生雄 『日本の神と王権』(法蔵館)
- 5: 細谷昌志 『文化の深淵としての宗教』(世界思想社)
- 7: エリアーデ 『聖と俗』(法政大学出版会)
- 8: ランツコフスキー 『宗教現象学入門』(海青社)
- 9: 馬形宗夫 『大聖堂のコスモロジー』(講談社現代新書)